



愛知県板金工業組合
発行 広報委員会
名古屋市昭和区北山町
3-8-6 〒466-0006
電話 052-732-1226

責任施工保証制度規約の一部改定について

9月10日に開催された愛知県板金の保証委員会において、次の2項に追記補足する事が取り決められましたのでお知らせ致します。尚、これは平成22年10月1日より施行されます。

第3章 検査
(検査の種類)
施工面積3,000㎡以上は、今後当分の間、検査員の検査は行わず、保証書の発行申請も受け付けない。

第5章 施工者
(施工者の資格)
第14条 2項

4年ごとに行う再講習受講資格は、保証制度適用店であること。
かつ、適用店役員、子息、社員もしくは従業員であり、二級以上の技能士資格を有する事。
再講習受講者で資格取得講習未受講者(適用店役員、子息、社員、従業員のうち)は次回開催の資格取得講習(4科目、2日間)を必ず受講すること。

岡崎支部 ストーンフェアに出展

10月16日(土)・17日(日)に岡崎の乙川河川敷においてストーンフェア(岡崎石製品協同組合連合主催)が開催され、3万人が来場した。

今年から補助がなくなり、大変厳しいなかの開催・出展となった。
岡崎支部は岡崎技術工学院のブース内で建築板金のPR活動を行った。屋根材・外壁材・雨樋商品・施工写真などを展示し、来場者に説明をした。



▶銅板レリーフ体験



▶商品説明をする青年部員



愛知県板金工業組合
新年懇親会のご案内

平成二十三年の新年懇親会は、知多ブロックの担当で開催されます。多数のご参加をお願い致します。

◆開催日時
平成二十三年 一月十六日(日)
受付開始 午前十一時
開宴 正午

◆会場
知多郡南知多町
内海口揚四一六
☎(〇五六九)
六二二二一一

◆会費
一、〇〇〇円

◆申込先
支部長まで会費を添えて申し込み下さい。

◆申込締切日
平成二十二年 十二月二十四日

◆交通のご案内
名鉄「内海駅」より
送迎バス運行
(送迎バスで五分)



平成22年度工業統計調査について

このことについて、愛知県統計課より次のように調査協力依頼がありましたので組合員の皆さんはご周知ください。

経済産業省では平成22年度工業統計調査を本年12月31日現在で行います。調査の実施に当たっては、本年12月から来年1



西三板金連合会では10月7日から11月中旬までの10日間(午後7時から9時)に亘りJWCAD講習を開催した。

当連合会単独で実施するのは経費及び受講人数において無理であるので岡崎技術工学院に短期課程の講習として取り上げて頂き、定員20名の内、会員9名が受講した。

この講習は初心者向けで、簡単な平面図を描けるまでの内容であった。受講料はテキスト代込みで1万3千円。

高橋(碧南支部)



豊橋市最大の市民まつりである「第56回豊橋まつり」が10月16日(日)の両日盛大に開催された。

まちなかエリアでは駅前周辺でのダンスコンテストや市民総踊りを、豊橋公園エリアでは造形パラダイスなど多くのイベントがあった。



▲賑わう東三支部のブース



▲熱心に製作する親子

銅板で鶴・亀を製作する体験コーナー、オリジナルキーホルダー作りなど、役員と青年部が中心となって指導、対応に当たった。

松浦(東三支部)

月にかけて調査員が伺います。なお、調査票に記入していただいた内容については、統計法に基づき秘密が厳守されていますので、正確なご記入をお願いします。

10月度の動き

【県板】

- 26日(水) 労保事務組合 担当者研修会
於 名鉄ニューグランドホテル
- 19日(火) 中央会 愛知大会
於 マリオットアソシアホテル
- 27日(水) 三役会
於 県板3階
- 27日(水) 中間監査
於 県板3階
- 28日(木) 広報委員会
於 県板3階
- 29日(金) 全国国保事務担当者会議
於 東京板金会館

【各支部】

- 名古屋板金連合会 9日 職人展反省会
- 熱田・南支部 21日 定例会
- 中川・港支部 28日 定例会

県板事務局 年未年始のお休み

日ごろは、組合事業にご協力を賜り有難うございます。県板事務局は、12月28日(火)午後から1月4日(火)までお休みさせていただきます。

- 一宮支部 23日 青年部定例会
- 27日 役員会
- 津島支部 5日 定例会
- 江南支部 15日 定例会
- 西春日井支部 25日 三役会議
- 西三板金連合会 7日 三役会
- 19日 役員会
- 岡崎支部 16日・17日 ストーンフェア参加
- 豊田支部 4日 第6回役員班長会
- 16日 青年部会合
- 西尾支部 14日 第7回役員会
- 東三支部 7日 三役会
- 16日・17日 豊橋まつり参加
- 28日 前期会計監査
- 28日 三役会

編集後記

今年に入ってから私の地区内や親戚や縁者の中で亡くなる方が今までに無く多い。ほとんどの方が90歳以上だ。つくづく長寿国日本の感がある。

それに伴い香典を包む回数も多くなった。そんなことから、香典について私なりにチョット考えてみた。

普通、死は前ぶれも無く突然にやってくる。葬儀代の有無に係らずだ。借金があり、融通出来る金が無ければ葬式も出せない。そこで相互扶助的に発生したのが香典ではないだろうか。

実際、その時、金は無くても葬式は出せる。私の父母の時もそれだけの蓄えは無かった。しかし、戴いた香典で35日法要までの費用をまかなえた。何十年包んできた香典がその時に戻ってきた様なものだ。

自分の葬儀代だけは蓄えておきたいとおっしゃる人も多いが、私はその様に思わない。質素で良い、戴いた香典だけで私を送って欲しい。

これからも、自分の葬儀代の一部と想いつつ香典を包みます。 高橋

十月二十八日(水) 雨
四六五号 編集会議
広報委員九名全員出席
午後二時半開会五時閉会